

ブラジル オレンジは契約がないまま5月が終了

[Cepea 2025年6月3日](#)

2025年6月3日、セペア - Fundecitrus (柑橘類生産保護財団)が5月にオレンジの出荷量予測 - 関係機関の予想を上回る3億1,460万箱(40.8kg箱) - を発表した後、関係者らは2025/26年度産の果実の出荷に向けて加工業者と生産者の間でより良い契約が締結されるのを待っていた。しかし、契約の締結は6月中旬以降になると見られる。

生産量が2回目の開花による果実に集中すると見られ、収穫が本格化するのは7月以降となる可能性がある。したがって、今のところ、加工業者が既に受け取っている、または今後数週間以内に受け取る可能性のある少量の果実は、以前の契約に基づくか、またはスポット市場で取引された果実である。このような状況下で、5月に加工業者に納入されたオレンジの価格に大きな変化は見られなかった。

加工業者に既に届けられた果実について、関係者らは品質が向上したと言っている。これは、果汁を生産するために必要なオレンジの量が少なくて済んだことを意味する。この前向きな状況は、一般的には、生産に有利な気象条件に関連している。

セペア/Cepea (サンパウロ大学応用経済高等研究センター)

ニュージーランド キウイフルーツの収穫はここ数年で最も順調

[FreshPlaza 2025年6月3日](#)

キウイフルーツ生産者協会(NZKGI)の最高経営責任者であるコリン・ボンド氏によると、最近のニュージーランドの果実収穫シーズンは、悪天候による混乱が最小限で、非常に平穏であった。同氏は、例年に比べて大きな気象災害がなかったことについて、これは収穫シーズンの始まりが早かったため、雨が降る前にかんりの果実が収穫できたことも一因であると述べた。

ボンド氏は、生産者は何度かの降雨に見舞われたが、主にタイムリーな収穫によって影響は限定的だったと述べ、Hort News (園芸ニュースサイト)に対し、「良いシーズンが訪れた時には、それを祝うべきだ。収穫については確かに比較的スムーズに進んでおり、生産者達は果実の品質と収量の高さに満足している」と語った。同氏は今シーズンを10点満点中8点と評価した。

以前の何回かのシーズンに影響を与えた労働力の課題は緩和されたようである。収穫プロセスは、レッドキウイの品種から始まり、グリーン、ゴールドという予想どおりの順序をたどる。この一貫性は、収穫後処理の自動化の進展と相まって、労働需要を一部軽減した。ボンド氏は、「ありがたいことに、労働力の状況は、近年に比べてはるかに良い」とコメントした。

しかし、依然として課題は残っており、特にホークスベイ、ギズボーン両地方の生産者達にとっては、サイクロン・ガブリエルの影響からの復旧や蔓の健康状態の問題がある。ボンド氏は、「これらの生産者の多くは最適な生産体制には戻っていないが、大多数は収益が改善するだろう。これは重要なことだ」と述べた。

キウイフルーツを園地から収穫後処理施設や港に輸送する上で、物流は非常に重要である。交通渋滞が輸送効率に影響を与えることもあるが、ボンド氏は、サプライチェーンは引き続き機能していると指摘した。タウランガ港への依存に対する懸念は根強く残っているが、今シーズンは高い運用レベルを維持している。

ボンド氏は、果実の効果的なマーケティングにおいてゼスプリが担っている役割を肯定した。ゼスプリが持つ長期の海運契約とチャーター船の使用は有益である。同氏は、市場の課題とマクロ経済的な圧力はあるが、ゼスプリは引き続き主要な市場への浸透に成功していると強調した。同氏は「これは、我々が提供する製品が健康的であるという長期的な評価を裏付けており、消費者の食のトレンドもまさにその方向へ進んでいる。」と述べた。

出典: [HortNews](#)